

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性				
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3		
21UMUP3205	主専実技Ⅲ B	3	<p>声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力を高める。</p> <p>ピアノ：芸術作品を演奏するためにふさわしいピアノ演奏能力を獲得することを科目目的とする。</p> <p>ヴァイオリン：前期の学習をふまえて、さらに音楽やヴァイオリンへの理解を深める。</p> <p>ヴィオラ：音楽性を向上させる。</p> <p>チェロ：前期の学習をふまえて、さらに音楽やチェロへの理解を深める。</p> <p>フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。</p> <p>クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。</p> <p>サクソフォン：さまざまな作品を演奏するために必要な能力を高める。</p>	<p>声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。これまでに身につけた呼吸法・発声法を駆使しながら、レパートリーを広げていく。下級学年で勉強を重ねた外国歌曲との相違点を踏まえ、試験課題である日本歌曲の演奏法を身につける。</p> <p>ピアノ：試験課題を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につけることを到達目標とする。</p> <p>ヴァイオリン：獲得した知識・技能を自らの演奏に活かす。</p> <p>ヴィオラ：演奏技術のみならず、音楽性を伴った意味のある音を出せるようにする。</p> <p>チェロ：前期で習得したテクニックを応用し、与えられた課題をさらに高度に演奏することを目標にする。</p> <p>また独奏のみではなく、他の楽器との合奏を経験し、幅広い音楽性を身につける。</p> <p>フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を自ら考え、適応力を身につける。</p> <p>クラリネット：楽曲の構成を把握する能力を身につける。</p> <p>サクソフォン：現代の作品を研究し、さらにレパートリーを拡大していく。</p>				◎				◎				◎		○
21UMUP4206	主専実技Ⅳ	4	<p>声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力を高める。</p> <p>ピアノ：芸術作品を演奏するために必要な能力を高めることを科目目的とする。</p> <p>ヴァイオリン：後期の卒業演奏のための技術的・音楽的理解の習得を目的とする。</p> <p>ヴィオラ：4年間の学習を完成させる。</p> <p>チェロ：これまでに習得してきた演奏技術の演奏表現の総合的完成を目的とする。</p> <p>フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。</p> <p>クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。</p> <p>サクソフォン：音楽性を磨きレパートリーの拡充を図る。</p>	<p>声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。声楽曲を演奏するために必要な発声法、呼吸法等の歌唱法のさらなる向上を目指す。楽曲の深い理解と解釈を習得する。レパートリーのさらなる拡大をはかる。</p> <p>ピアノ：試験課題を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につけることを到達目標とする。</p> <p>ヴァイオリン：音楽家としての資質を高めるため、演奏技術、音楽的理解、表現力のさらなる向上を目指す。</p> <p>ヴィオラ：卒業演奏へ向けてこれまでの学習を再検討し、不足している部分を強化するとともに、自らが得意とする技法や表現をより伸ばしていけるようにする。また、プロフェッショナルとして求められる資質についても考えられるようにする。</p> <p>チェロ：チェロのためのソナタ、協奏曲、もしくはそれに準ずる作品を選択し、曲の完成を目標とする。</p> <p>フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を自ら考え、適応力を身につける。</p> <p>クラリネット：舞台での演奏を念頭に置き、必要十分な技術、表現力を身につける。</p> <p>サクソフォン：卒業演奏での作品を決定する。これまでの学習内容を生かし、さらに研究を深める。</p>				◎				◎				◎		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
21UMUP4207	卒業演奏	4	<p>声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力をさらに高め、大学での主専実技の総仕上げとして公開での演奏を行う。</p> <p>ピアノ：卒業演奏として公開演奏を行う。</p> <p>ヴァイオリン：充実したヴァイオリン演奏ができるよう、演奏技術・音楽理解度を再確認し、卒業演奏として公開演奏を行う。</p> <p>ヴィオラ：4年間の学びの集大成を卒業演奏会で発表する。</p> <p>チェロ：充実したチェロ演奏ができるよう、演奏技術・音楽理解度を再確認し、卒業演奏として公開演奏を行う。</p> <p>フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。</p> <p>クラリネット：これまでの学習の成果を、卒業演奏として発表する。技術と心を兼ね備えた表現豊かな演奏を望みたい。</p> <p>サクソフォン：4年間の学習の成果を卒業演奏として公開で行う。</p>	<p>声楽：今までの学習を基に、自らが考え、感じながら表現する力を最大限に発揮し、技術力・表現力を兼ね備えたより完成度の高い演奏を目指す。</p> <p>ピアノ：今までの学習を基に、自ら考え感じながら表現する力を最大限に発揮し、表現力・技術力を兼ね備えた完成度の高い演奏を目指す。</p> <p>ヴァイオリン：今までの学習の集大成として、質の高い演奏をする。</p> <p>フルート：今までの学習を基に、学生が自ら音楽的理解をより深め、豊かな表現力とそれに必要な演奏技術の向上を目指し、創意工夫をする。その集大成として卒業演奏で発表する。</p> <p>クラリネット：舞台での演奏に必要とされる高度な技術、および表現力を身につける。また舞台マナー等にも気を配れるようにする。</p> <p>チェロ：チェロソナタ、協奏曲、若しくはそれに準ずる作品を選択し、技術的、精神的にも完成した演奏ができることを目標とする。</p> <p>ヴィオラ：課題曲目を熟考し、演奏技術のみならず、課題曲の背景などにも目を向け、プロフェッショナルとして通用する演奏を目指す。</p> <p>サクソフォン：これまでの学習内容を生かし、学生生活の集大成として高いレベルの演奏を目指す。</p>	◎	◎	◎	○								
21UMUP1208	副専声楽実技ⅠA	1	<p>声楽を学ぶにあたっての基礎知識を習得させる。専門や、教職に必要な基本的な事柄をふまえて、歌うということを習得させる。また、歌とピアノ伴奏とのアンサンブル感覚を養い、他の楽器にはない「歌詞（言葉）」の重要性を意識させる。</p>	<p>声を用い自分を表現できることを目標とする。</p>	◎						○					
21UMUP1209	副専声楽実技ⅠB	1	<p>前期に学んだ基礎知識や、呼吸法、発声法、また、専門や、教職に必要な事柄をさらに充実させ、歌うという事を習得させる。</p>	<p>声を用い自分を表現できることを目標とする。</p>	◎						○					
21UMUP1210	副専ピアノ実技ⅠA	1	<p>バッハ等のバロックの作品を中心に、ツェルニー30番の習得も含めて、必要な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。</p>	<p>基礎的な技術を習得し、音楽表現に結び付ける。バロック時代の音楽、特にバッハの音楽の様式感を理解し、表現できるよう習得する。</p>	◎						○					
21UMUP1211	副専ピアノ実技ⅠB	1	<p>ハイドン等の古典派の作品を中心に、ツェルニー30番の習得も含めて、必要な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。</p>	<p>ハイドンの作品の様式感を理解して表現できるように、テクニックを高める。</p>	◎						○					
21UMUP2212	副専声楽実技ⅡA	2	<p>1年生で学んだ歌うための基礎知識をさらに充実させ、専門や教職に必要な事柄を引き続き習得する。</p> <p>本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p>	<p>声を用い自分を表現できることを目標とする。</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>	◎						○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																								
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																								
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性																
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3													
21UMUP2213	副専音楽実技ⅡB	2	前期に学んだ基礎的呼吸法、発声法をもとに発声の追求に取り組む。専門や、教職に必要な基本的な事柄をさらに充実させ、歌うということを知得する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。						◎													○						
21UMUP2214	副専ピアノ実技ⅡA	2	「副専ピアノ実技Ⅰ」に引き続いてより高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な技術を高め、より多彩な曲の表現に役立てる。安定したテクニックで、特にバッハの様式感を踏まえた演奏を目指し、ポリフォニー作品に取り組む。 ピアノ専修の学生は特に初見能力を高める。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。										◎								○							
21UMUP2215	副専ピアノ実技ⅡB	2	「副専ピアノ実技Ⅰ」に引き続いてより高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な演奏能力をさらに高め、古典派の音楽に親しみ、様式感を理解し、音楽的表現を目指す。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。										◎								○							
21UMUP3216	副専音楽実技ⅢA	3	2年間学んだ呼吸法、発声法の充実と、音楽内容のさらなる追求に取り組む、専門や、教職に生かせることを目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。																			◎				○		
21UMUP3217	副専音楽実技ⅢB	3	入学以来の学習の成果を十分に発揮することを目指す。これまでの学習の集大成として、技術、音楽性、豊かな人間性を兼ね備えた演奏ができることを目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。																				◎			○		
21UMUP3218	副専ピアノ実技ⅢA	3	「副専ピアノ実技Ⅱ」に引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な技術を安定化させ、より多彩に各曲の表現をする。ロマン派の音楽の様式感を踏まえた表現の演奏を目指す。ピアノ専修の学生は初見能力をさらに高め、さまざまな曲に臆せず取り組む。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。																				◎			○		
21UMUP3219	副専ピアノ実技ⅢB	3	「副専ピアノ実技Ⅱ」に引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	さらに演奏技術を高め、古典派はもとより、ロマン派の音楽も表現できるように自発的な音楽づくりを目指す。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。																					◎			○	
21UMUP4220	副専ピアノ実技ⅣA	4	「副専ピアノ実技Ⅲ」に引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。	基礎的な技術のさらなる向上と読譜力および表現力のアップを目指す。																						◎			○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性						
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3				
21UMUP4221	副専ピアノ実技ⅣB	4	「副専ピアノ実技Ⅲ」に引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。	これまでの積み上げてきた演奏技術を駆使して、各自で自由に選択した曲を、その曲の持つ様式感にふさわしい演奏ができるように総仕上げする。									◎						○	
21UMUP1222	ソルフェージュⅠA	1	読譜・聴音・視唱などの基礎能力の他に、演奏するために必要な作曲家の意図を総合的に把握し表現できる能力を養う。	音楽を表現するために必要なリズム感、フレーズ感を養い、教職等の現場での実践力を養う。	◎									○						
21UMUP1223	ソルフェージュⅠB	1	前期にひきつづき、読譜・聴音・視唱などの基礎能力の他に、演奏するために必要な作曲家の意図を総合的に把握し表現できる能力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	♯、♭一つまでの旋律に適した伴奏を付けることができ、複数の旋律を聴きわけることができるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎								○							
21UMUP2224	ソルフェージュⅡ	2	音楽活動をするための基本的スタンスを確立する。音楽的基礎能力を各個人の能力に従って順次高めていく。	すべての調の旋律の初見視唱とともに、その旋律への簡単な伴奏付けができるようにする。さらに社会での音楽活動に必要な初見視奏や移調奏などの能力の養成も合わせて行う。	◎									○						
21UMUP1225	和声法A	1	楽典の知識を身につけ、構築の柱の一つである和音の流れ（和声）をベースに楽曲構成、対位的な旋律の構築について作品の考察をする。これにより作曲家の意図を正確につかみ、創造的な表現に活用し得る能力を養成する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基本形によるバス課題（調号3つまでの調）を四声体にするようにする。8小節～10小節位の曲。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎								○							
21UMUP1226	和声法B	1	西洋音楽の中核をなすバッハ・モーツァルト・ベートーヴェンなどの作曲家によって完成された和声技法の基礎を学び、和音の使い方を通して、作曲家の意図を正確につかみ表現できる能力を養う。	バスの動きをもとに四声体にするが、その際に旋律的に美しいソプラノ作成を目指す。	◎									○						
21UMUP2227	指揮法Ⅰ	2	音楽性豊かな表現をするための基本的な指揮法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える身体的表現を身につける。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。										◎			○			○
21UMUP2228	指揮法Ⅱ	2	さらに多彩な表現をするための応用的な指揮法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える身体的表現を身につける。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。										◎			○			○
21UMUP4229	作家作品研究Ⅰ	4	西洋の音楽作品にみられる音楽そのものの背景を、その歴史的意義と文化史的意味を視野にいれながら、演奏解釈にも有用な分析の在り方を習得することを目的とする。	音楽作品の創作過程とその文化的背景を知ること、自ら音楽表現に資することを目標とする。	◎									○						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性							
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3				
21UMUP4230	作家作品研究Ⅱ	4	西洋音楽の作品が生み出される背景と音楽作品自体に内在している音楽的出来事を分析的に考察する。その考察に基づいて実際の演奏表現に資する問題について講義する。	幅広い音楽作品へのアプローチの方法を、実際の演奏に反映できるようにすることを目標とする。		◎			○											
21UMUP2231	即興演奏 A	2	「即興演奏」の手法を学び、その基礎力を身につける。	科目習得時には、伴奏譜がなくても、メロディーとコードネーム付き一段譜を見て、変奏も含めた簡単な即興演奏ができる事を目標とする。					◎											
21UMUP2232	即興演奏 B	2	「即興演奏A」で学んだ即興とはまた違った即興演奏を学習し、基礎力をさらに向上させる。簡単なメロディーを即興的に作成し、ピアノで即興演奏できる事を目指し、将来、教員や音楽教室講師などの職業に大いに役立つ力を身につける。	科目習得時には、メロディーのモチーフを発展させ、即興的に簡単な曲が作成できる事を目標とする。					◎											
21UMUP4233	作・編曲法 A	4	主に歌曲の創作を通して、作曲のプロセスを学ぶことにより基礎的な作曲技法を学習するとともに、作曲家の意図する音楽はどのようなものかを把握し、演奏に反映することのできる能力を養うことを目的としている。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	◎			○											
21UMUP4234	作・編曲法 B	4	器楽作品を主な題材に、作品の作られた時代背景にも考慮しながら作品分析を行い、音符や記号、楽語などの情報表現を含む基礎的な作曲技法を学習するとともに、作曲家の意図する音楽はどのようなものかを把握し、演奏に反映することのできる能力を養うことを目的としている。	西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。	◎	◎			○											
21UMUP2235	旋律と和声 A	2	多種の和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、時代背景や地域性をも考慮しながら研究し、作品を深く理解する能力を養う。	和声課題の実践能力と、楽曲に於ける和声の仕組みを読み取り考察する能力とを身につける。	◎				○											
21UMUP2236	旋律と和声 B	2	多種の和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、時代背景や地域性をも考慮しながら研究し、作品を深く理解する能力を養う。	和声課題の実践能力と、楽曲に於ける和声の仕組みを読み取り考察する能力とを身につける。	◎				○											
21UMUP2237	教育伴奏法	2	中学、高等学校の授業で取り上げられるような教材を用い、各曲の指導のねらいとポイントにそった音楽づくりができるような伴奏および弾き語りをする。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ピアノ専修：伴奏を通して音楽全体を把握し、より良い音楽表現を目指して弾き語りをすることを目標とする。 声楽・管弦専修：伴奏を通して音楽全体を把握し、曲にふさわしい音楽表現を目指して弾き語りをすることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎				◎						○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																				
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																				
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性											
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3									
21UMUP3245	合唱	III	3	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うことを通して社会で協調できる能力の育成を目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。											◎	◎								
21UMUP1246	学内演奏	I	1	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	演奏やレクチャーを受講し、客観的に音楽をとらえていくことを学ぶ。													◎						○	
21UMUP2247	学内演奏	II	2	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	鑑賞をすることで、演奏者の音楽に対する取り組みを学び、演奏者としてそのことを活かせることを目標とする。													◎						○	
21UMUP3248	学内演奏	III	3	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	・多様な演奏を聞き、講義を受講することにより、音楽に対する感性を養い、知識の幅を広げる。 ・演奏者および鑑賞者としてのマナーを習得する。														◎						○
21UMUP3249	器楽合奏		3	教育現場における多様性に学生が自ら考え、創意工夫をし、対応できる力を身につける事を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	アルトリコーダーの基本的な奏法を習得し、合奏を通して、アンサンブルの中における個の表現力とアンサンブル全体の表現力にイメージを及ぼす事により、協調性を育み、自らの演奏の問題を発見し、それを克服する術を自ら考える。 教育現場における邦楽への関心の高まりを受けて、篠笛の奏法も学習する。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。													◎	◎						
21UMUP3250	邦楽		3	学校教育において「和楽器の履修」が義務となっている現状では、その指導者の育成は急務である。その必要性は学校だけにとどまらず、一般社会においても望まれている。本講座では、邦楽を邦楽器（箏）の演奏と歌唱の両面から学び、基礎知識および演奏法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	箏の基礎知識を理解できるようになることはもちろんであるが、箏の奏法を習得し、演奏できるようになることを最も重要と考え、到達目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。													◎						◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性																			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3																	
21UMUP4265	伴奏法	4	音楽表現の中で、パートナーと五分五分の関係にある伴奏の重要性を理解し、伴奏に求められている柔軟で確実なテクニックや多彩で豊かな音楽性について考察し、質の高い演奏技能を習得する。その上で、一人では完成できない曲をともに作り上げていく喜びを感じ、さらに多彩で深い表現を求めて自主的に探究していく力を養うことを目的とする。	パートナーとともに音楽を表現することに喜びを感じるために、安定した信頼できるテクニックを習得すること。また、ともに音楽を作り上げていくパートナーの息遣いを感じ、そのフレーズに相応しい表現のために柔軟な対応ができる力を養うことを目標とする。														◎	○		◎	○											
21UMUP4266	ピアノアンサンブル	4	ピアノという楽器に習熟し、パートナーとのふれあいを通じてアンサンブルとしての調和を学び、ともに生きた音楽を作りあげるよるこびを体得する。	できるだけ多くの楽曲に接し、前期・後期の最終授業では演奏ホールで仕上げの演奏を発表する。																		◎	○										
21UMUP4267	ピアノ指導法	4	教えることを通して、改めて自分のピアノ、音楽に向かう姿勢など見つめ直す機会とする。	演奏をクリティカルな聴き方をするだけでなく、その楽曲について作曲家の意図を考え、どうすればそれが聴き手に伝わる演奏となるのか、具体的に考える。生徒が楽曲について興味を持つようなレッスンについて考える。基礎的な読譜力を高める。																				◎	○								
21UMUP3268	チェンバロ	3	チェンバロ奏法の習得とバロック時代の音楽習慣の理解を目指す。	バロックの作品を演奏するときに戸惑いがちな装飾法やアーティキュレーションといったバロック独特の演奏習慣を理解するために、チェンバロの奏法を学ぶ。また、バロックから初期古典派時代に存在した独特な音楽的演奏習慣や演奏語法の知識を深めることにより、古典派さらにロマン派音楽への変遷を理解することを目指す。																		◎	○										
21UMUP3269	重奏演習	3	ピアノを含む室内楽曲において、他楽器とのアンサンブルの楽しさや難しさを知り、合わせるテクニックを身につける。	他楽器との関係が対等であることを理解し、時に伴奏、時に主導権を握って音楽を進めていく双方の弾き分けを身につける。																					◎	○	○	○					
21UMUP4270	合奏指導法	4	合唱、オーケストラ、吹奏楽など音楽家同士のコミュニケーションが必要とされる現場で、指導者としてどのようにアプローチしていくかを考察する。楽器、声楽の知識、また演奏技術や作品の熟知など様々な面の研究が必要とされる。また、合奏（音づくり）指導や練習方法などを学ぶ。	合奏指導法では、指導者の目線で音楽を捉えつつ、また相手に「どのように伝えるのか」をテーマに研究していく。																							◎	◎	○	○			
21UMUP1271	合奏I	1	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	基本的な合奏の技術を身につける。																									○	◎	○	○	
21UMUP2272	合奏II	2	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	より高度なアンサンブル能力を身につける。																										○	◎	○	○
21UMUP3273	合奏III	3	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	自分の声部だけでなく、音楽全体を把握できる能力を身につける。																										○	◎	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																		
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																		
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性									
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3							
21UMUP4274	合奏	IV 4	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	さらに高度なアンサンブル能力を身につける。また舞台マナー等にも気を配れるようにする。																			